

# 養護研だより

川崎市小学校教育研究会

養護研究会会報

発行日 令和6年12月6日

10月23日(水)に特別活動研究会と合同で行った、玉川小学校と久地小学校での授業研究会には、合わせて185名の参加がありました。両校とも授業参観後、対面で3つの分科会での研究協議を、オンラインで全体協議を行いました。

特別活動研究会と本研究会の共催が始まって3年が経ちました。特別活動研究会の皆様には、養護教諭が独り立ちできるように、授業の基礎基本、TT の在り方や進め方、授業研究会の運営の仕方等、きめ細やかにご指導いただきました。心よりお礼申し上げます。研究授業をお引き受けくださいました、授業校の校長先生、玉川小学校、久地小学校の先生方、ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

川崎市立下河原小学校 菊地美和子

3年 学級活動

題材「かんでけんこう! もぐもぐマスター」

学級活動(2) ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

川崎市立玉川小学校 遠藤 麻美教諭(T1) 近藤こずえ養護教諭(T2)

## 【本時の流れ】

- 《つかむ》咀嚼についてのアンケート結果から自分たちの課題に気づき、咀嚼ガムを使ってアンケートで答えた普段の1口あたりの咀嚼回数を、咀嚼ガムを使って試し、自分たちの咀嚼の実態と課題を把握した。
- 《さぐる》しっかり噛むとどんなよさがあるのかを養護教諭と一緒に考えた。
- 《見つける》もぐもぐカードを使い、しっかり噛むためにできることを、班で考えた。
- 《決める》もぐもぐカードをもとに、一人一人実現可能なめあてを立てた。



## 【研究協議】分科会后、全体会を行った

### 導入

- ・自分では噛んでいたと思っていたが、実際は噛めていなかったと気づくスタートにはとても良い教材だった。
- ・遠藤先生・近藤先生がしっかりクラスの実態を掴んでいたからこそ効果的にできたことだと思う。

### 展開

- ・担当がしっかり分けられていて、メリハリがあった。
- ・噛むといいことの掲示をめくる方式にしたことによって、子どもたちとの掛け合いができていて良かった。
- ・一人一人が咀嚼する大切さに意識を向けられていたと思う。自分事として聞いている様子が見られた。

### 終末

- ・給食中の噛むことに関するめあてを立てて、3食のうち1食でもみんなで頑張ることができるのもよいと思った。
- ・「話し合って決める」が特別活動なので、その時間がしっかり確保されているのがよかった。そこからの自己決定→実践・事後活動の流れもしっかり設定されており、「特別活動」と「保健体育」の違いがちゃんと出ていた。

### その他

- ・食育であれば、養護と栄養士と一緒に出てくる授業も良いと思った。
- ・事後の活動で、家庭でも試せるようにガムを渡しているとのことだが、それが家庭への啓発になったり復習になったりするのではないかな。

## 【指導講評】特別活動研究会 副会長 川崎市立上丸子小学校 教頭 横山 里恵様

- ・TT 指導のポイント・役割分担はよく打ち合わせてできていた。掛け合いがとても良かった。日頃から、子どもの成長を先生同士が真剣に楽しんでいることの現れ。T1 と T2 と児童で対話するということができている。
- ・即時即行、すぐやりたいと思える題材であることが大切。今日の子どもたちは、早ければおやつ時間・今日の夕食から噛むことを意識した生活になっているのではないのでしょうか。

### ▼つかむ

- ・カラーチャートと咀嚼ガムを活用することで、視覚化し、実感する。自分の一口と比較することができていた。しっかり噛むことの大切さを知りたいと思う導入。
- ・汚いなどの言葉がなかった。先生が作り上げてきた学級経営がすばらしかった。

### ▼展開

- ・からだの全体に行き渡っているのがわかる話の流れだった。板書の掲示物が内容を簡潔明瞭に児童へ伝えるものになっていた。説明が長引かずサクサク進められてよかった。
- ・小グループにして、自分事として考える、日常の振り返り、自分の悩みを暴露することができるのが印象的だった。グループ活動のよさがあった。

### ▼もぐもぐカード

- ・中には「足をつけるのは×」といった子に対して、その意見に「わかるよ」と答えている子がいた。×がよしとされている教室。すばらしい。
- ・「ながら食べをしない。」わからない言葉をそのままにして通過しない、ストップして言葉の確認。「テレビみながら、〇〇しながら。」という説明をしたことで、子どもたちは一気に自分ごとにして考えられていた。話し合い活動にすべての子を取り残さず参加させるうえでの配慮があってすばらしい。

### ▼決める

- ・子どもたちは自分でカードから選んで決めていた。中には、さらに足す5回でアレンジを加えていたり、すぐに飲み込まないと新規の目標を作る子もいた。自分で考えていける子になる。
- ・理由のところを書く、今の自分にとって必要だという根拠と向き合う。自分を振り返られている。

### ▼学級活動とは

- ・「成すことによって、学び、学んだことによってふたたび成す。」の繰り返し。実践の場が家庭や社会とつながっているため、家庭地域と情報を吸い上げて、子どもを中心として子どもの成長について考えていってください。

## 【指導講評】養護研究会 会長 川崎市立下河原小学校 校長 菊地 美和子様

- ・日常の観察から、よく実態を捉えていて、授業に活かしていた。主体的な態度につながっていく授業でした。
- ・教師は意図的・計画的に指導する。学年全クラスでの授業や、給食中の観察を経て実態をしっかり捉えているからこそ、ねらいが達成されていた。担任の先生の学習の指示やルールが明確、養護の先生を尊重していただきながら進んでいた。
- ・児童に共通する課題「噛む」を捉え、保護者からの相談も受けていた。「みんなにピッタリの授業だよ」と先生がいうと、ぴったりだと子どもたち。前向きな導入が良かった。事前アンケートも効果的だった。声のトーンやテンポがとても良かった。
- ・咀嚼ガムの効果：奥歯でよく噛んでいた。見せあって実験していた。黒板の色指標を見て、ちょっと立ち止まらせて確認できると記憶にのこる。保護者面談の時に配付した咀嚼ガムを家庭で噛む事後活動時に、色の変化を比較できる。
- ・養護教諭の資料提示と講話の効果：めくりの掲示物が効果的だった。絵で興味関心を引き付けて、考えさせて。子どもの中で噛むことって意外と大切なんだねというつぶやきがあり、気づきを促す資料であり提示の仕方や講話であった。
- ・話し合いの効果：担任の先生が吹き出しの中に根拠をまとめて、インパクトのある言葉で端的に板書されていた。さすが、授業のスペシャリストの担任の先生ならではのだった。〇×ボードと手持ちのカードがあることで、話し合いが進んだ。指し示したり、置き換えたりしながら話合っていた。黒板と手持ちの資料2つあったことが、より活発な話し合いになっていた。
- ・実現可能なめあての効果：オリジナルのめあてを考えている児童もいた。「全部正解、全部やりたい」という子もいた。自分に合うめあてを考えていた。子どもたちのやりたいという意欲につながっていた。

- ・学校保健は学校全体ですべての教職員で行っていくもの。特別活動の、学級活動、学校行事、児童会活動は養護教諭と深くつながっている。この営みは、特別活動のこの領域の中で行っていると意識しながら取り組んでほしい。
- ・学級活動に体と心のスペシャリストとしての養護教諭の専門性を生かすには、学習指導要領の理解、学校保健計画、校内授業研究会への参加、小教研研究推進、教育の場としての保健室経営、ヘルスプロモーションの理念が鍵となる。養護教諭が直接関わると豊かな学びになる。目の前の子どもたちに合う支援や個別の保健指導につなげていける。さらに、個別の保健指導を集団指導につなげて、個と集団を往還させて子どもを育ててほしい。

文責 川崎市立大谷戸小学校 小田桐 瑛子

6年 学級活動

題材「心の健康」～不安や悩みへの関わり方～

学級活動（2）ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

川崎市立久地小学校 吉田 孟留教諭(T1) 所 智恵養護教諭(T2)

### 【本時の流れ】

《つかむ》アンケート結果をもとに、不安や悩みは誰もが抱える問題だと確認し、心が元気な状態を考えることで、解決したい気持ちを高めるような見通しをもつ。

《さぐる》体調不良の背景には、心の状態も影響していることを知る。

《見つける》不安や悩みを一人で抱え込まず、相談できる人を考える。

また、身近で相談できない場合の対処もあることに気が付く。

《決める》figjam を活用し、友達の見ても参考にして、自分に合った目標を決める。



### 【研究協議】分科会後に、全体会を行った

#### A グループ

- ・「心の健康」は、集団を対象とする授業で取り扱うには難しい単元だが、将来につながる大切な内容である。
- ・今後の ICT 活用場面を模索する中で、figjam の実践を見る機会をもてたことは学びとなった。
- ・養護教諭は、伝えたい思いを授業の形式に落とし込む技術が勉強不足だと感じた。今後の課題として取り組んでいきたい。
- ・養護教諭が、実態からつかんだ資料等を提示することで、子どもの既存の知識がゆさぶられ、特に「つかむ・さぐる」の段階で考えが深まる効果がある。

#### B グループ

- ・外部機関に相談するという視点を伝えられたのは良かった。ただ、養護教諭や担任といった身近な人に相談できることを、もう少し伝えても良かった。
- ・外部機関やインターネットで相談する子はより深い悩みを持っていると思われる。「悩み、相談」と検索すれば多彩な情報につながる中で、検索の仕方も今後指導していく必要があると感じた。
- ・figjamのまとめやすさもあるが、心を扱う題材なので、対話を通じた意見交流でも良かった。

#### C グループ

- ・子どもが自分事としてとらえることができるように、導入で本時の学びの必要感が作れるとよかった。
- ・子ども同士で意見交流し「もし〇〇だったらこうする」など、考えを深める事ができていた。
- ・保健(教科)は知識を得る授業であり、特別活動は実践するためのめあてを立てることをねらいとしている。その違いを改めて意識できた。

### 【指導講評】 特別活動研究会 副会長 川崎市立子母口小学校 教頭 大類 良知様

- ・元気なクラスだった。子ども一人ひとりにパワーがあり心が開放され、しっかり学級経営されていると感じた。



- ・養護教諭と連携した授業は「けが」や「病気」が多いが、「心」を取り上げたことは6年生という発達段階にも良い題材だった。
- ・【つかむ】事前アンケートで、自分にも関係するような場面の提示があると良かった。自分が悩む可能性のある場面設定を提示すると、さらに自分ごとに落とし込むことができる。
- ・【さぐる・みつける】グループ活動は figjam が有効に活用され、慣れている感じてよく頑張っていた。自分たちで理解し、解決方法を発見して進めていたのが伝わってきた。
- ・【きめる】ワークシートが実践化につなげる決め手となる。記入の際に手が進んでいない子が見受けられた。自分事として捉えられるようにすると良い。
- ・養護教諭でなければ伝えられない内容がある。スライド資料の提示は、養護教諭のほうが担任より説得力がある。相談機関の紹介も養護教諭の発信だと説得力が増す。子どもたちも「そうなんだ」と納得していた。
- ・T1, T2での授業実践は、お互いの専門性を活かせるように、目当てをもって実践化していくことが大切である。養護教諭の強みは専門性であり、意欲を高めるきっかけ作りに効果がある。T1, T2のバランスを上手く取れる授業を今後も目指していけると良い。

**【指導講評】 養護研究会 顧問 川崎市立戸手小学校 校長 後藤 美智子様**

- ・元気で明るく、お互いを尊重しながら話し合っている姿があり、あたたかい雰囲気の学級であった。
- ・健康課題に対応する取組は、教育活動全体を通じて教職員が連携することが重要である。その中で養護教諭は、児童生徒の健康課題を的確に早期発見し、生涯にわたって健康な生活を送るために必要な力を育成するため、日頃から教職員と連携することが大切である。
- ・養護教諭の役割として、子どもたちが自ら意思決定し行動選択できるように、養護教諭が中心となって健康相談や保健指導に取り組み、支援することが期待されている。
- ・今日の実践は、様々な学校保健に関わる統計調査の結果でも「不安や悩みがある」と答えている児童は半数を超えており、解決するために「親や友達に相談する、自分で考えて解決に向けて努力する」といった回答が多くあることからとても価値のある授業だった。小さな不安や悩みでも心と体は密接に関係しているので、適切に対処し、意思決定したことを行動にしてほしいという思いが込められていた。
- ・健康課題の解決では、計画的、意図的、継続的に実践していく授業が大事である。年間計画に入れて取り組んでほしい。また、保健室の来室状況からも健康課題を捉えることができるので、学校の状況に応じて指導内容にいかしていくことが重要である。
- ・保健室の来室状況や figjam、ワークシートなどの様々な手立てを活用した授業であった。特に子どもたちが figjam を上手に活用していた。子どもたち同士が意見交流しながら解決策を見つけていくことができていたが、中には大人からみると適切ではないと感じるものもあったので記載されている内容の確認をしながら授業がすすめられるよう工夫していくとよいと感じた。
- ・養護教諭が授業に参加することによって、授業の印象が残る。保健室の様子を伝えることで自分の学校のことだと身近に捉えることができる。専門的な立場からの教材の提示や指導ができ、事後に個別指導の必要な児童への対応も可能となる。今後も担任の先生と養護教諭で積極的に連携して授業に取り組んでほしい。



文責 川崎市立末長小学校 田中清美